

**[成果情報名] 諫早湾干拓地における耐塩性樹木の植栽後8年目の生育状況**

**[要約]**干拓地植栽後8年目までの樹高成長が4m前後まで成長するのは、ナンキンハゼ、クロマツ、マサキなど11種類である。トベラは一般的な樹高とされている2～3m程度まで成長する。干拓地で植栽木へピートモスを施用しても、樹高成長や生存本数へ効果が見られない。

**[キーワード]**干拓地、ピートモス、樹高成長、生存本数

**[担当]**農林技術開発センター・森林研究部門

**[連絡先]**電話 0957-26-3330

**[区分]**林業（育林） 総合営農

**[分類]**行政

---

**[背景・ねらい]**

干拓地において樹木を植栽する場合、その土壤に適した耐塩性樹木および植栽方法の選定が必要である。そこで、干拓地周辺や県内の海岸で生育している樹種等を中心に干拓地内に植栽し、土壤改良剤であるピートモスを施用して植栽後の成長量などを調査した。

**[成果の内容・特徴]**

1. 高木類で植栽後8年目の樹高が4mを越えたのは、ナンキンハゼ、クロマツ他9種類である（図1）。
2. 中低木類において植栽後8年目の樹高が4m程度であったのは、マサキ、サンゴジュである（図2）。
3. 中低木類のトベラは干拓地においても、一般的な樹高とされている2～3m程度まで成長する（図2）。
4. 植栽木にピートモスを施用しても、その後の樹高成長や生存数への効果は見られない（図3、図4）。

**[成果の活用面・留意点]**

- ・ 相対樹高成長率： $\frac{\{ \ln(\text{調査年の樹高}) - \ln(\text{植栽年の樹高}) \}}{(\text{調査年} - \text{植栽年})}$  である。
- ・ 干拓地に樹木を植栽する際の参考になる。
- ・ 病虫害の発生などを調査する必要がある。

[ 一 ]

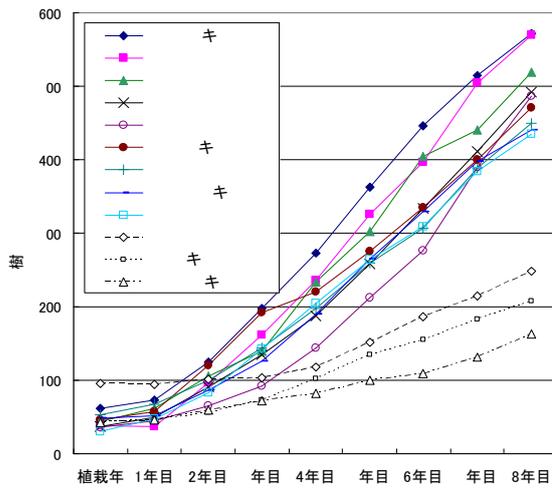


図1 高木類の平均樹高推移

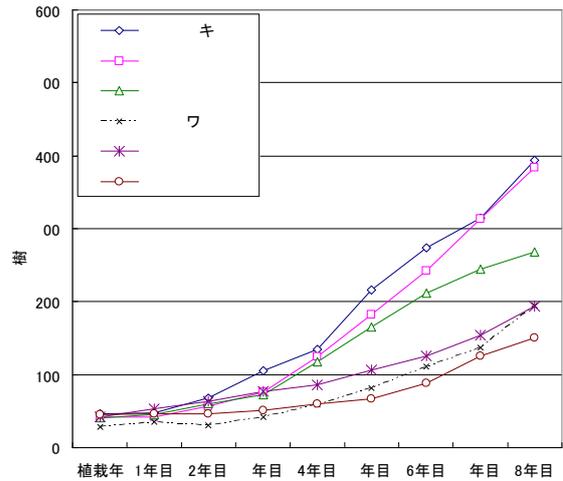


図2 中低木類の平均樹高推移

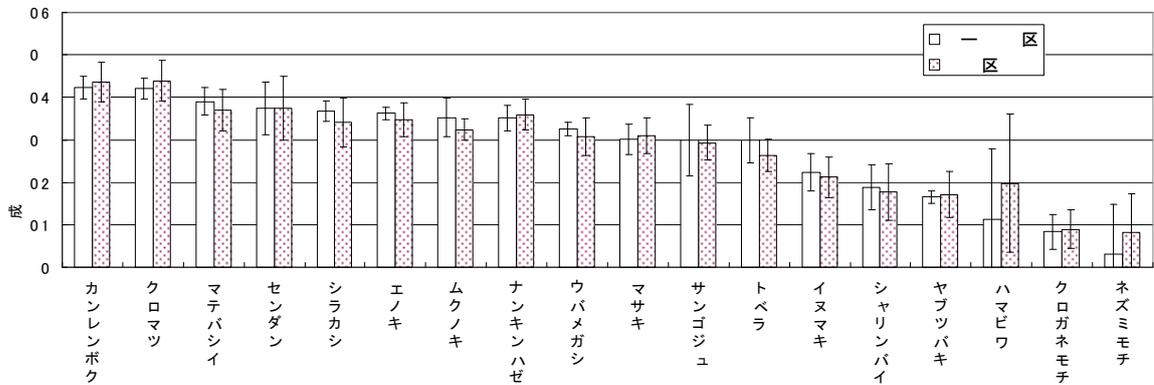


図3 植栽後5年目の樹種・処理区別相対樹高成長率（5%水準で有意差無し）

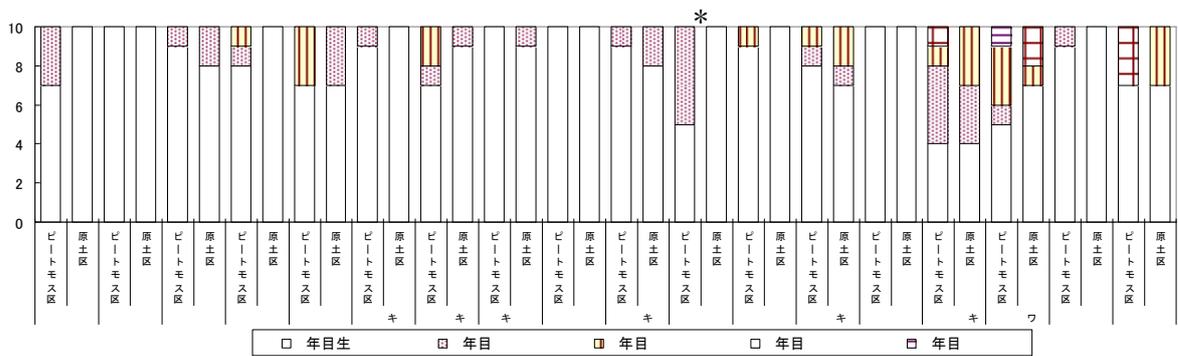


図4 植栽後5年目までの樹種・処理区別の生存・枯死本数  
（\*：5%水準で有意差あり）

[ の ]

研究課題名：大規模環境保全型農業技術の確立

予算区分：県単

研究期間：2008年度～2010年度

研究担当者：清水正俊 森口直哉